

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画（第3層） 2021年度達成度評価表 分野：社会貢献

中期目標		評価	理由
地域連携、産官学連携の強化により、広く社会に貢献し、大学の社会的責任を果たします。			
中期計画	1 地域連携ネットワークの強化	B	総合リハビリテーション学部の明舞団地における地域交流活動の活性化において、既存のイベントに協力するだけでなく、地域住民のニーズを見出し、それに対応した独自の活動を行ったことは長所である。地域住民のニーズ調査等を、新型コロナウイルス感染対策をしつつ実施しており、今後の取り組みが期待される。また、社会連携部の企業、その他の団体等との連携強化および推進において、まねき食品との新たな取り組みとして「駅弁開発」を行い全国展開の準備を進め、六甲バターとの連携事業「マラソンレシピブック」では8レシピが採択され、お披露目会を実施するなど社会貢献に資する取り組みは長所である。今後は、実例をより一層学内外で紹介し、各学部等に奨励することを期待する。
	2 教育研究成果の社会への還元	C	生涯学習事業の強化および推進について、新型コロナウイルス感染拡大のため、社会への還元のための機会が減った。しかし、社会連携部においてはWEB申込システムを導入し土曜公開講座・グリーンフェスティバルの新規参加者を増やしたことや有料公開講座を神戸三宮サテライトで行うことで申込者数を増加させたこと、新規年齢層を対象とした講座を開催したことは評価できる。今後はWEB申込システムでどのくらいの人数の新規参加者を獲得できたのか、新規年齢層とはどのような年齢層なのかといった分析を進め、生涯学習事業の強化・推進を進めることが望まれる。
	3 ボランティア活動の推進と支援体制の充実	C	持続的にボランティア活動を行うためには学生スタッフの増強と資質向上が課題となる。ボランティアの確保と学生スタッフの強化は困難であると想定されたコロナ禍に、ボランティアガイダンスやボランティアなんでも相談の機会を利用してボランティアに関心のある層へアプローチし、学生スタッフの募集を2年生まで広げて参加者を大幅に増やした積極的取り組みは長所である。また、職員の学生スタッフ運営会議のサポートにより、弱体化しつつあった学生スタッフ運営体制を強化できたことは、今後の学生スタッフの増強と資質向上につながると考える。ボランティア学生スタッフ制度の強化を図るためのPDCAcycleがうまく機能していることもまた長所である。一方、単身高齢者が多い震災復興住宅の地域活性化活動については、神戸市の計画の打ち切りにより、計画の立案すらなされていない状況である。「誰のために」「何のために」を明確にして、活動計画を再構築することが望まれる。
	4 総合型地域スポーツ・文化クラブ事業の推進	C	総合型地域スポーツ・文化クラブ事業の推進体制の充実は、新型コロナウイルス感染拡大により正課外活動やスポーツフェスタの中止が決定したため困難であった。危機管理対策本部会議の決定に従いつつ、断続的ながら粘り強くイベント運営を継続したことは長所である。特別強化クラブ・強化クラブのうち未参画のクラブには参画を促すことが必要である。また参画クラブは事業の企画・運営に専心し、広報については広報部と連携して、戦略的に展開することが望まれる。

評価 S：目標よりはるかに上回る、A：目標をやや上回る、B：おおむね目標どおり、C：目標をやや下回る、D：目標をかなり下回る